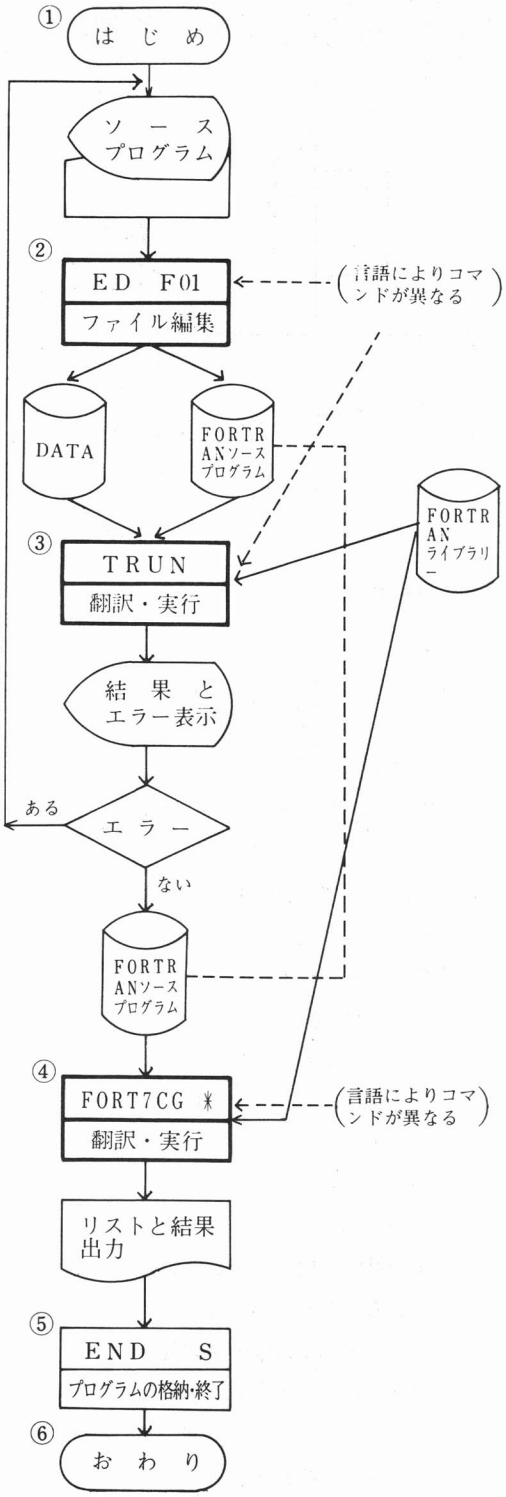
6．プログラム処理の流れ

FORTRAN言語ソースプログラムの処理の流れを例として示す。



コマンドプロシジャを使用することにより，TSS端末を使用する場合，利用者は，FORTRAN，COBOL，BASIC，自動製図，NCテープの作成などを特に意識することなく，次の約束に従ってコマンドを入力すればよい。

① TSS端末の開始処理

LOGON　コマンド

② プログラムの作成

②-1　ソースプログラムのファイル準備

ED　F01　(FORTRAN)

(プログラム番号)

(FORTRAN言語を意味する)

ED　C01　(COBOL)

ED　B01　(BASIC)

ED　D01　(DATA)

NCED　F01　(自動製図)

NCED　N01　(NCテープ作成)

※　プログラム番号は1～99まで使用できる。

②-2　ソースプログラムの入力と修正

使用言語によるソースプログラム(データ)の入力とエラーの修正を行う。このとき，ソースプログラムは，一時的に使用される編集用データセットに作成される。

③ ディスプレイ上への実行結果表示とエラー表示

TRUN　(FORTRAN, COBOL)

RUN　(BASIC)

DRUN　(自動製図)

NCRUN ＊　(NCテープ)

④ プログラムリストと実行結果出力

FORT7CG ＊　(FORTRAN)

COBUCG ＊　(COBOL)

DRA ＊　(自動製図)

NCG ＊　(NCテープ)

⑤ プログラムの保存と終了

END S

ソースプログラムを後で再び使用するためにSAVE（S）コマンドを使って利用者用データセットに保存する。

⑥ TSS端末の終了処理